

労使で構築する



活動のすすめ

はじめに

私たちの日々の営み、社会生活、職業生活、家庭生活、すべての生活の場において最も大切に価値ある取組みの一つが「安全衛生」に対する取組みです。「安全衛生」に対する姿勢や取組みの本質は「人が人であること、人間らしく生きること」を守り育てることだからです。

自らの命を守る、仲間の命を守る。どのような理由や原因にせよ、一度失ってしまうと決して取り戻すことのできないもの、「かけがえのないもの」を守ることの大切さと崇高なる意義を改めて見つめなおし、「安全衛生」活動に徹底した取組みを行う信念をより強くしていただく一助になることを願って本書を作成いたしました。

「安全衛生」への考え方や姿勢は、人間の尊厳に最も高い価値を認めること、基本的人権の尊重という普遍的な価値観の確立と共に深化をしてきました。「安全衛生」に対する徹底した取組みは、人間の尊厳を守り基本的人権を尊重することと同義語であることを歴史が教えてくれています。

歴史から「安全衛生」を振り返ることで、「安全衛生」への強い意識を全ての人が分かち合えれば大きな前進になると思います。「安全衛生」への取組みには勇気と思いやりが不可欠だからです。危険だと感じたら止める。おかしいと感じたら立ち止まる。止める、立ち止まることは「安全衛生」において、決して臆病な行動や意識ではなく、真に勇気ある行動です。自分自身の命を思いやる、家族の命を思いやる、仲間の命を思いやる、思うだけでなくその思いを行動に移す、その勇気の表れが安全衛生活動です。安全専一（安全第一）。

「安全衛生」への理念の確認と併せて具体的な取組み、労働災害対策の現状や新たな視点、労使で取組む「安全衛生活動」の基本、労働安全衛生の効果的マネジメント、KY危険予知や不安全行動の徹底排除等の大切な事柄も、事例を活用して解かりやすくご理解いただけることと思います。

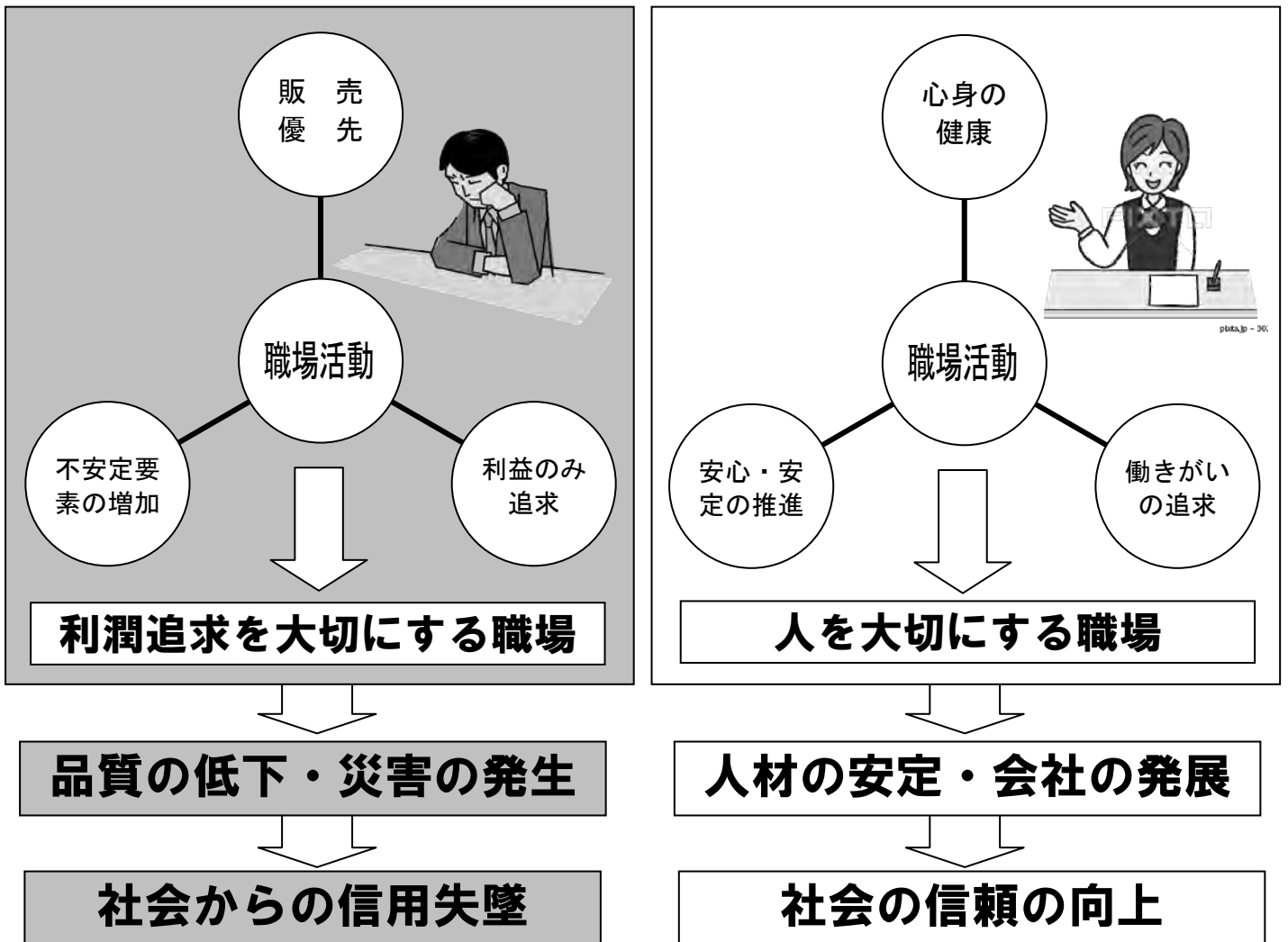
安全第一。かけがえのないものを守る。安心して生活ができる社会。安心してイキイキと働くことができる職場を創る。今以上に誰でも人間らしく、価値ある人生を送ることができる社会を創るため、今も実践している仲間の皆さんへの感謝と災害ゼロ社会、危険ゼロ社会の実現に向けての運動の一助として本書がお役に立つことを願っています。

目 次

1. 安全第一の起源に学ぶ	3
2. 安全週間スローガンの歴史に見る基本的方向	4
3. 世界の安全の取り組み	5
4. 労働災害状況 経過	6
5. 労働災害対策3つのポイント	7
6. リスクアセスメント	9
7. リスクアセスメント演習	10
8. 労働安全衛生マネジメントシステム	14
9. ヒューマンファクター	16
10. メンタルヘルス 法律の制限	17
11. 過労死の労災認定者の時間外労働の実態	18
12. 労使の取り組み	20
13. 安全衛生委員会のステップアップポイント	21
14. メンタルヘルスカケアを意識した安全衛生委員会を軸とした職場活性化に向けて	22
15. 忘れてはいけないベースとする 考えと行動	23
16. 生きた事例から学ぼう	24

1. 安全第一の起源に学ぶ

安全衛生活動と労働組合・会社の目的
「組合員と家族の幸せ」＝「会社の発展」



～歴史に学ぶ～ セーフティ・ファースト

1900年初期、アメリカUSスチール会長のエパート・ジャッジ・ゲーリーは、担当に「自分がかねてより労働者の負傷率を最小限にとどめることのできる工場を建て、家族を真に安心させながら、労働者が存分に働ける楽土を建設したいという願望を抱いていたが、いまこれを実行しようと思う。金に糸目をつけないから、君の思う存分計画してくれたまえ。」

それにより、

- ①機械配列の整備
- ②安全装置の設置
- ③安全標識の設置
- ④花壇付き社宅の建設
- ⑤病院の完備

やがて1917年、第一次世界大戦が勃発し、アメリカは人手不足になった。他の工場は機械装置が古く熟練工しか扱えず、人手が集まらず生産力が低下するなか、設備が整備されていたUSスチールは熟練工を必要とせず、労働力低下が起きず大いに能率をあげ、大きな利益をあげた。